

茨木市立西河原小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③ B書くこと | 課題が残る結果であった |
| ④ C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問
設問3(3)原因の漢字の書き取り
・もっとも正答率の低かった設問
設問2(3)(4)資料の読み取りから条件に合わせて書く問題
・もっとも無解答率の高かった設問
設問3(2)自分の考えを主張する文章を書く問題
・もっとも無解答率の低かった設問など
設問3(3)原因の漢字の書き取り

分析

全国的な傾向と同様に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「A話すこと・聞くこと」では良好な結果であり「B書くこと」「C読むこと」「記述式」は、課題が残る結果であった。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる問題はよくできていた。全学年通して、漢字指導で読み方や字形に注意して繰り返し練習を継続している成果が表れている。

「要約する」「理由を明確にししながら自分の考えを書く」などの条件に合わせて書くことに課題がみられる。これは、読解力や語彙力の課題もその要因であると考えられる。主語・述語を意識して読ませたり、事実と意見を区別して読ませたりするなど、学年に応じた読解力をつける指導を継続する必要がある。また、一昨年度から継続している「書く力の育成」をテーマとした国語の授業づくりの研究に更に力を入れていく。

また、他教科でも文字数や指定した言葉を使ってふりかえりを書く取組みを継続し、スピーチ、日記、読書活動など教育活動全般を通して国語力の向上に取り組んでいきたい。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問
設問3(2)学年ごとの本の貸し出し冊数について棒グラフから分かることを選ぶ。
・もっとも正答率の低かった設問
設問2(3)二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題
・もっとも無解答率の高かった設問
設問2(3)二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題
・もっとも無解答率の低かった設問
16の設問中10の設問で無解答率が0%であった。

分析

算数では、全ての領域、問題形式で概ね良好な結果であった。基礎的、基本的な知識・技能が身につけていると言える。特に、変化と関係、データの活用の領域は、良好な結果であった。データ分析に関わる数学的活動を通して、棒グラフの特徴やその使い方を理解することで、普段から算数で学習したことを社会や理科など他教科でも資料活用に力を入れてきた成果が表れている。

一方、正答率の低かった問題は、図形領域における記述式問題である。複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを判断する問題である。答えの理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。そのため、基本的な知識・技能を生活の場において活用できる力をつけたり、正解を導く過程の数学的に表現できる力をつけたりする必要がある。日々の学習の中で、事柄が成り立つことの説明として必要な根拠をもって、求め方について筋道を立てて説明ができるよう指導し、全学年を通して、基礎基本の徹底、書く力、表現力の育成を進めていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

一昨年度に比べ、学力高位層は上昇、学力低位層は減少、中間層は横ばいであり、取り組みの成果が見られる。

過去3年を遡ると国語、算数ともやや上昇傾向にあり、成果がみられる。

無回答率が過去数年で最も低くなっており、大変成果が上がっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

過去3年を遡ると、学力高位層、中間層はやや上昇、低位層は減少しており、取り組みの成果が見られる。とりわけ算数において顕著な成果が見られる。

学力向上に関する取り組み

① 授業改善

- ・国語「意見文指導」研究授業・校内研修会の実施
- ・支援教育研修会「子ども理解」の実施
- ・問題解決学習の追求 主体的・対話的・深い学びの授業づくり
- ・算数（3年～6年）1クラス2分割習熟度別指導
- ・算数の習熟度別指導の担当教員を中心とした3年から6年の系統性、継続性のある指導の重視
- ・子どもが分かる授業づくり
全教科で「めあて」を明確にし、「振り返り」を大切に授業づくりを行っていく
- ・西河原スタンダードを基にした授業（授業の進め方、授業に集中しやすい筆箱の中身、挨拶の統一）
- ・ICT機器を活用した授業
- ・1人1台タブレットの活用
ミライシード、タブレットドリル、オクリンク、ムーブノート、Teams
- ・プログラミング学習
- ・「ことばのちから」を活用した書く力の育成

② 学力低位層を減らす取り組み

- ・デジタル教材や視覚教材の活用（1年から6年まで算数のデジタル教科書を活用）
- ・実態に合わせた課題の設定
- ・学習サポーターによる入り込み指導
- ・補充学習の充実
授業時間外での個別補充学習。（20分休み、昼休み、放課後等）
算数教室での自主学習（児童が自ら分からないことを聞きに来ることができる環境づくり）

③ 家庭との連携

- ・家庭学習ががんばり週間（宿題提出率100%達成をめざす）の実施
家庭学習の定着・充実を図るため毎学期1回実施する
保護者へ家庭学習啓発プリントの配布
- ・学校だより、学年だより、ホームページにて教育活動内容とその目的、授業中の児童の様子等を伝える

④ 幼小中連携

- ・合同研修会の実施
中学校ブロックで連携してブロックの課題解決について話し合う
連携カリキュラムの実施・検証・改善
- ・小中合同研究会の実施
「書く力の育成」をテーマに各校での取り組みを交流し、継続的な力の育成を図る